

令和8年度 自己評価計画書

石川県立羽咋高等学校

重点目標	具体的取り組み	担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
1 協同（協働）的な学び、個別最適な学びの推進 協同学習の視点を取り入れ、授業形態の工夫や観点別評価等の活用により生徒が主語の授業への改善を図る。	① ・探究的な学びを取り入れた授業改善 ・生徒の主体的な活動を促す発問の工夫 ・学習到達度に応じた習熟度別指導の充実 ・ICTを活用した学習支援の充実	教務課	1人1端末を活用した授業や、ペアまたはグループで話し合う授業は日常的に行われている。しかし、生徒の興味・関心に基づいた主体的な学びへとつながる、探究的な学びの実践は、必ずしも多いとは言えない。	【満足度指標】 生徒が探究的な学びを通して興味・関心を高め、主体的に取り組んでいると感じられる授業が実践されている。	授業評価アンケートにおいて、「探究的な学びを通して興味関心が高まり、主体的に取り組もうと思える授業が行われている」という項目に、「よく当てはまる」と答えた生徒の割合が、 A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	年2回の授業評価アンケートで評価する。
2 豊かな心の涵養 生徒が主体的に運営する生徒会活動や部活動等を創出するなど、様々な活動を通じて生徒に達成感や自己有用感、自尊感情を育む。	① ・生徒による行事運営の推進 ・部長会議の定期開催 ・各委員会委員長会議の活性化	生徒課	生徒会行事や部活動に対して主体的に取り組んでいる生徒は多いが、達成感や自尊感情の高まりまで感じられている生徒は50%程度である。そこで、ボランティア活動に焦点を合わせ、生徒が1人1取組、ボランティア活動に参加することを目標とし、生徒が自主的にボランティアを実行できるよう、機会や情報を適切に提供することが課題である。	【成果指標】 ボランティア活動に生徒が1人1取組参加する。	1人1取組、ボランティア活動に参加したという生徒の割合が、 A 85%以上 B 70%以上 C 55%以上 D 55%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	年2回の学校評価アンケートで現状を把握する。
	② ・生徒主体による校歌・応援歌練習の実施 ・校歌を大切に歌うことによる学校への帰属意識の醸成	総務課	生徒課と連携し、生徒の主体的な取り組みとして校歌や応援歌の練習は行われているものの、その活動が十分に愛校心の育成につながっているとは言いがたい。式典や儀式において歌詞の意味をしっかりと理解し、気持ちを込めて歌う姿勢を育てたい。	【成果指標】 校歌等をしっかりと歌うことで愛校心が育まれている。	学校評価アンケートにおいて、「校歌等の歌唱を通して、学校の一員であるという意識がより育まれた」という項目に、「よく当てはまる」と答えた生徒の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	年2回の学校評価アンケートで現状を把握する。
	③ ・スマートフォン、携帯電話等によるインターネットトラブル(いじめを含む)に関する継続的な全体指導 ・生徒会によるネットトラブル防止啓発活動の企画、実施 ・いじめアンケートの実施	生徒課	自己の何気ない行動がインターネット上のトラブルを引き起こす可能性に対する意識が十分でない生徒も多いため、教員全体で継続的に指導していくことが求められる。	【成果指標】 スマートフォン等によるインターネットトラブルに対する、安全・予防対策を実践している生徒の割合が高まっている。	学校評価アンケートにおいて、「スマートフォン等によるインターネットトラブルに対する安全・予防対策を、十分に実践している」という項目に、「よく当てはまる」と答えた生徒の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	年2回の学校評価アンケートで現状を把握する。
3 課題発見力・解決力の育成 DXハイスクール採択校として、DX探究未来塾（総合的な探究の時間等）での活動を通し、AIが普及する中、人間として「未来可能性」の視点を持たせ、地域社会の問題解決や改善に取り組ませる。	① ・プロジェクト型授業（PBL）の実施 ・教科横断的授業の実施 ・データサイエンス講座の実施 ・豊富な発表機会の設定	探究課	本校は、昨年度はDXハイスクール採択校およびSTEAM教育推進事業モデル校として、地域探究トライアルキャンプやアプリ開発講座などの新たな取り組みを展開した。今年度は、2年生の授業が週2時間（従来は週1時間）に拡充されることから、取り組みのさらなる充実と計画的な実施が求められる。	【努力指標】 生徒が自ら課題を設定し、解決に向けて主体的に取り組む姿勢を育てるとともに、様々なコンテストや発表会への積極的な参加を促していく。	校外主催のコンテストや発表会に参加した件数が、 A 90件以上 B 60件以上 C 30件以上 D 30件未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	年度末に評価する。

4	進路指導の深化 生徒の高い進路目標設定とその実現にむけて、校内全体のサポート体制の更なる充実を図る。	①	<ul style="list-style-type: none"> 日々の学習を自らの将来と結び付けて考えさせることを通したキャリア意識の育成 添削等の個別指導と、補習や学習会等の全体指導を組織的・計画的に行う指導の実施 生徒一人ひとりの希望進路やニーズに応じられる指導体制の構築 	進路指導課	令和8年度入試国公立大学合格者は ア：難関10大学・国公立医学科合格者 2名 イ：金沢大学合格者 14名 ウ：国公立大学合格者 合計81名である。	【成果指標】 生徒が高い進路目標を達成している。	ア：難関10大学・国公立医学科合格者3名以上 イ：金沢大学合格者15名以上 ウ：国公立大学合格者80名以上 上記ア～ウのうち達成した項目が A 3項目 B 2項目 C 1項目 D なし	C、Dの場合、改善策を検討する。	年度末に評価する。
		②	<ul style="list-style-type: none"> 学習支援アプリを活用した生徒自身による生活管理の推進 学習支援アプリを活用した生活実態の把握と個々の生徒へのフィードバック 個別面談を通じた現状と課題の把握 	進路指導課	平日の家庭学習時間を2時間以上確保できている生徒は少なく、4月から学習時間を1時間以上増加させた生徒の割合も30～50%程度となっている。手帳等に今やるべき適切な学習計画を立て、学習を中心とした生活リズムをうまく構築する力を育てる必要がある。	【成果指標】 1・2年生で平日の家庭学習時間を1時間以上増やした生徒の割合が高まっている。	1・2年生それぞれで、平日の家庭学習時間が1時間以上増加した生徒の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	年5回の学習時間調査及び日々の学習時間の記録で判断する。
5	教職員の多忙化改善 学年・分掌業務の平準化や業務の精選により時間外勤務の削減を図る。	①	<ul style="list-style-type: none"> 教員の業務の適切な配分 業務の重複や無駄の削減 ICTを活用した教員間での情報共有や連携の強化 	教頭	令和7年度の月平均の時間外勤務時間は42.2時間であった。数字だけで判断できない部分も多く、一昨年度(38.9時間)、昨年度(42.6時間)と比較して減少しているとは言えない。取り組みへのさらなる工夫が必要である。	【成果指標】 教職員全員が多忙化改善に向けた取り組みを実施し、時間外勤務時間を減らす。	教員の時間外勤務時間調査において、月平均の時間外勤務時間が A 35時間以下 B 35～40時間 C 40～45時間 D 45時間超	C、Dの場合、改善策を検討する。	職員の勤務時間調査で判断する。